

第 1 回長岡市総合計画策定委員会における意見の集約

<意見交換（まちづくりの視点等）>

—策定の考え方—

- ・法定計画でなくなった中での策定の意味を計画に込めたい。
- ・現在の施策を評価し、次の計画に結び付けていくことが非常に大事。
- ・従来の達成目標の基準・目標値の根拠が曖昧。
- ・子ども・若者・次世代の子どもの意見をどう取り込むか。
- ・意見聴取やアンケートで市民の声を集めることも大事。
- ・長岡の現状の印象や将来について、学生に聞く機会を設けて欲しい。
- ・総合計画策定のため、既存の委員会にどのような意見を求めるのか。
- ・中越地域の発展を検討する上で、長岡がどういう役割を演じていくのかを考える必要がある。

①より住みやすいまちに向けて

- ・長岡は子育てする環境が極めて良い。
- ・子どもを支えるための大人たちの社会教育を、いかに特色を持ってやっていくか。
- ・県内のいたる場所で、廃校になる学校や、空き教室がある。
- ・小学校の有効な利活用を考えている自治体を参考にしてみようか。
- ・人口減少社会の中で、人が使う土地はこれ以上要らない。
- ・都市部をコンパクトにして、農業や自然との折り合いをどう付けていくか。
- ・誰もが健康で安心安全な地域社会を形成するには、介護保険などの課題がある。
- ・高齢者に活躍してもらおう方策を検討してみようか。

②働きやすいまちに向けて

- ・素晴らしいものづくり、農産物、山・海等の観光資源があり伸びしろが多い。
- ・製造業で若者が定着しない。若い人が喜んで住めるようなまちにしたい。
- ・農家は長岡の食品加工業者と連携して農業を発展させていきたい。
- ・長岡の農業・食の魅力を外からの目線で発掘することが大事。
- ・農業と観光を連携した誘客も必要。
- ・良い先生が講師のままで正式に採用されていない。
- ・男女ともに能力・個性を発揮できる男女共同参画を反映したい。

③市民の誇りを高めるために

- ・長岡の魅力は、都会性と田園性がミックスされていること。
- ・多様性と魅力に富んだまちの魅力にみんなが気づき、誇りを持って欲しい。
- ・多様性や流動性をこの10年で獲得。地域資源を活用して強固にしていきたい。
- ・地域間での相互理解や各地域での内部的な取組も大事である。
- ・大勢が集まると大きな力になる、何を目指し発信していくかが必要。
- ・交流人口を増やすため、地域全体として観光発展を検討する必要がある。
- ・中山間地の暮らしや魅力・宝物を発信するべき。
- ・花火をこれからのシティプロモーションや子供が夢を描けるまちづくりに役立てたい。
- ・長岡で学んで帰国し、活躍している留学生とのネットワークをどのように活かすか。